

私立 徳島文理大学 徳島文理大学短期大学部

取組名称 低学年からの専門相談員相談で高めるキャリア意識と意欲の向上策

取組担当者 就職支援ユニット長・キャリア・サポートグループ長 前川 俊孝

1. 本学の概要

徳島文理大学は、1895(明治28)年、学祖村崎サイによって「女も独り立ちができねばならぬ」の精神により創立された。

現在は、徳島キャンパスに6年制薬学科を持つ薬学部、食物栄養、児童、心理、メディアデザイン、建築デザイン、人間生活の6学科を持つ人間生活学部、理学療法、看護、人間福祉の3学科を持つ保健福祉学部、総合政策学科を持つ総合政策学部、音楽学科を持つ音楽学部、商科、言語コミュニケーション学科、生活科学科(生活科学専攻と食物専攻)、保育科、音楽科からなる短期大学部を有し、香川キャンパスには6年制薬学科と4年制薬科学科のある香川薬学部、臨床工学科、ナノ物質工学科、機械創造工学科、電子情報工学科のある理工学部、文化財学科、日本文学科、英語英米文化学科のある文学部の併せて9学部26学科を有する西日本有数の総合大学であり、6つの大学院、3つの専攻科を合わせて計4,721名の学生が学んでいる。

本学では、創立以来115年間にわたり、「自立協同」の建学精神の下、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献することを目的に、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成を目指している。

2. 本取組の概要

これまで就職率100%を目標として、専門講師による就職ガイダンスやセミナー、就職対策講座等を実施してきたが、なかなか学生の意識が就職直前まで高まらず、立ち上がりの遅さが課題であった。そのため2008(平成20)年度の学内機構改革に伴い、就職部をキャリア・サポートグループと改組し、1年生の段階から全員にキャリアガイダンスを実施するなどして意識の向上を図ってきた。しかし、全体指導には限界もあり、より高い就職率を目指すには学生個々のカウンセリングを充実し、早くからキャリアアップを目指す意

識を高めることが肝要である。そのため学生個々の適性を把握し、チューターが一人ひとりと向き合う中で個々の意識や問題点を洗い出し、専門知識・技能を有する就職相談専門員を配置して低学年でのキャリアカウンセリングから就職活動学年の学生への就職相談までの専門的個別相談態勢を充実させることで目標とする就職率100%の実現を図っていく。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 趣旨・目的

学生全員の就職を目指すためには早期に学生の就職への意識や就職を目指す意欲を高めることが必要である。そこで、従来からのキャリアガイダンス等による全体指導に加え、チューターや担任との個別面談を通じて見えてくる進路に対する悩みを個別に就職専門相談員に相談することのできる態勢を整えることにより、大学生活のスタート時点から将来の進路を考えて大学生活を充実させることにより、低学年からキャリア意識と意欲の向上を図るとともに、就職活動学年でのより積極的な就職活動を支援することで就職率の向上を図ることを目的とする。

本補助事業の初年度においては、実施時期が2、3月と限定的であることから、特に就職活動学年での積極的な就職活動を支援するため、面接トレーニングワークショップを開催して学生個々に対する個別指導の充実を図ることと、就職活動推進の指針としてのガイドブックを導入・利用して一層円滑な就職活動の推進を図ること、さらにはそこで生じる個別の相談へのガイダンス機会の充実を図ることを目的とした。

さらに事業2年目には、低学年から学生の就職への意識や就職を目指す意欲を高めるため、入学直後の1年生全員を対象にキャリアガイダンスを行い、ガイドブック(キャリア入門)を導入して今後の学生生活の進め方を考える中で、将来のキャリアアップに向けスタートさせる。そして、自分発見検査を通して自己の興味や適性を客観的に見つけ、チューターとの面談や

ポートフォリオ作成過程で生じる、進路の悩みや不安を気軽に専門の相談員に相談できる機会を充実し、保護者にもガイドブック（保護者編）により現在の就職環境や子供の就職への理解を深めることにより、低学年からキャリア意識を高め、就職への意欲付けを行うこととした。

また、就職活動学年での積極的な就職活動を支援するため、面接トレーニングワークショップを引き続き開催して学生個々に対する個別指導の充実を図ることや、就職活動推進の指針としてのガイドブックを導入・利用して一層円滑な就職活動の推進を図ることで就職率の向上を図ることを目的とした。

（２）達成目標

本取組により、入学時点から個別・専門のキャリアカウンセリングの機会を充実させる。早期にキャリアへの明確な展望を持たせることで積極的に就職活動に取り組む意欲を高め、ガイダンス等への参加率を向上させる。これにより意識の遅れによる就職未決定者を減少させ就職率を上げることを目指す。本学短期大学部では2010(平成22)年度入学生から新たに「キャリア短大」を目指し改革を行っている。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

（１）取組の具体的内容

(i) 上記の目的・目標を達成するために、事業初年度の2009(平成21)年度においては就職活動学年を中心に就職問題に悩む学生に対し専門相談員による個別のカウンセリングを行い、実践活動をサポートするガイドブックを配付した。

その具体的な取組内容は次のとおりである。

① 2月～3月 専門相談員(キャリアコンサルタント)による専門相談の実施

就職活動での具体的な悩み・相談を必要とする学生に対し個別専門相談を行うことにより、積極的な就職活動の支援・推進を図る。

② 3月 面接トレーニングワークショップの実施

就職試験を目前にした就職活動学年の学生に対して実践的個別的指導を行う。

③ 3月 ガイドブック(大学生の就活/短大生の就活)の導入と利用

就職活動推進の指針とし効果的な就職活動を展開する。

④ 3月 第1回事業評価委員会の開催

学内の就職支援委員会メンバー代表に学外よりのメンバーを加えた事業評価委員会を設置し、第1回目の会議を開催して、学外への事業内容の発信と本年度の評価並びに次年度の実施内容についての理解と協力を得る。

(ii) 事業2年目の2010(平成22)年度においては、低学年からキャリア意識と意欲の向上を図るとともに、就職活動学年でのより積極的な就職活動を支援することにより就職率の向上を図ることを目指し以下のような取組を実施している。

① 4月～3月 専門相談員(キャリアコンサルタント)による専門相談の実施

これについては、平成21年度に引き続き、専門相談員による就職専門相談を実施する。1年生全員に対するキャリアガイダンスや引き続いての自分発見検査を基にした、将来の進路についての悩み相談から就職活動学年の学生を対象とした具体的就職活動での悩み相談まで、個別専門相談を行うことにより、積極的な就職活動の支援・推進を図る。



写真1 専門相談員相談の様子

② 5月 ガイドブック(キャリア入門)の導入と利用

1年生全員に対するキャリアガイダンスにおいて、ガイドブック(キャリア入門)を導入し、今後の学生生活の進め方から将来の進路設計に向けての意識の高揚と就職への意欲付けを行う。



写真2 キャリアガイダンス(1年生全員対象)



写真3 就職活動支援ブック（キャリア入門）

③ 5月 自分発見検査の実施

1年生全員に対するキャリアガイダンスにおいて趣旨を説明した後、日を改めて時間をとり実施する。その結果はチューターや担任との個別面談での相談資料としても利用し、進路についての悩みや相談を必要とする学生を対象に専門相談員による個別相談を実施し、大学生活への目標付け等キャリア意識を高め就職への意欲を向上させる。

④ 7月 ガイドブック（保護者編）の導入と利用

1年生の保護者に対してガイドブック（保護者編）を送り、現在の学生を取り巻く就職環境や就職への道のり、保護者としての対応の仕方等、自らの体験した状況との違いや学生の置かれている状況について認識してもらい、親子の事前の十分なコミュニケーションや就職に向けての相互理解を深め、学生の就職活動を積極的に理解し支援していく環境整備を行う。



写真4 就職活動支援ブック（保護者編）

⑤ 9月 ガイドブック（大学生の就活／短大生の就活）の導入と利用

就職を目前に控えた就職活動学年の学生を対象として、ガイドブック（大学生の就活／短大生の就活）

を導入することにより、就職活動の各場面での具体的な対応について理解させ、自らの就職活動推進に自信を持って取り組むための指針として利用することにより、効果的な就職活動を展開させる。

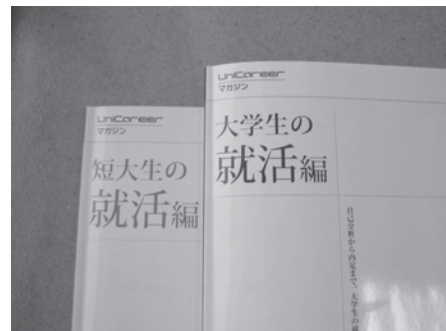


写真5 ガイドブック（大学生／短大生の就活編）

⑥ 2月 面接トレーニングワークショップの実施

就職活動学年の学生に対し、就職試験を目前にした時期において、それまでの各種セミナー等による全体的な指導に加え、学生個々に焦点を当て、実践的個別の指導を行うことで自信を持って就職試験に臨ませることによって就職率向上に繋げる。

⑦ 3月 第2回事業評価委員会の開催

学外よりのメンバーを加えた事業評価委員会において、第2回目となる本年度の会議を開催し、これまでの事業の内容・結果について検証・評価し、今後の本学におけるキャリア支援・就職支援に関わる取組の推進に繋げていく。

以上が、今回の補助事業により取り組んでいる具体的内容である。

（2）取組の実施体制

専門相談員によるカウンセリングの広報を行うとともに、キャリア・サポートグループ職員が学部学科別就職説明会等でガイドブックを配付し説明・指導する。さらに全学の就職支援委員会をつくり、自分発見検査の実施や専門相談員と各学科との連携を深める。個別の専門カウンセリングについては、キャリア・サポートグループで受付調整を行い効果的にカウンセリングを実施する。

5. 本取組の評価体制・評価方法

全学の就職支援委員会に保護者・企業・ハローワーク代表を加えた事業評価委員会を組織し、2009(平成21)年度末に第1回委員会を開催し、2009(平成21)年度の事業評価を行う。その結果も踏まえ、2010(平成22)

年度末に全事業について評価・検討を行い、今後のキャリア・就職支援に生かすとともに学生の各種ガイダンスやセミナーへの参加や意欲的な就職活動の促進を図る。

評価方法として、

・ 専門相談員によるキャリアカウンセリングでの満足度向上

- ・ ガイダンスや就職説明会への出席率向上
- ・ ガイダンス等でのアンケートの満足度向上
- ・ 就職率の向上

等により事業の成果を把握していく。

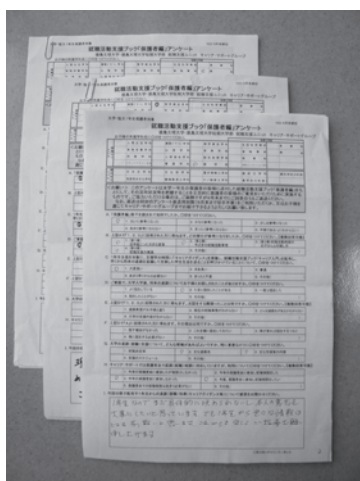


写真6 保護者編アンケート

6. 本取組の実施計画等

本補助事業を実施するに当たり、専用のカウンセリング室を確保し、キャリアコンサルタントの国家資格を有する専門相談員を依頼するとともに、学内で部局長会や合同教授会並びに就職支援委員会で事業説明を行い全学的な理解と協力を依頼した。事業の初年度の実施計画としては、先に述べたような内容で計画し、実施した。

事業2年目としても、記述した内容での実施計画を策定し、現時点まで、ほぼ予定通りの事業を実施してきた。

今後は、残された事業を実施するとともに、その結果について各種アンケートの集計等を通じて検証していく予定である。

財政支援期間終了後の展開としては、キャリアコンサルタントとの交流を通じて、キャリア・サポートグループ職員の就職相談技術が向上し、支援期間終了後の学生に対する相談対応の改善充実に生かす。また、カウンセリングによる学生の意識向上をガイドブック

の活用を通して継続し、就職支援委員会においてガイダンス等への参加促進による学生の意識向上が支援期間終了後もさらに高まるような展開を目指す。

今回の補助事業実施計画を実施することにより、本補助事業から得られる具体的な成果としては、以下のとおりである。

(1) 専門相談員（キャリアコンサルタント）による就職専門相談の実施により、学生の就職に関する悩みの解消を図ることで、就職活動への意欲を高めることができる。

(2) 1年生全員に対するキャリアガイダンスにおいて、ガイドブック（キャリア入門）を導入することにより、今後の学生生活の進め方から将来の進路設計に向けての具体的な指針を示すことができ、キャリアアップへの意識高揚と就職への意欲を高められる。

(3) 自分発見検査の実施により、学生が自分自身を客観的に捉えるデータを得ることができ、その結果を基にしたチューターや担任との面談、更には就職専門相談員との個別相談により、将来の進路を見据えた大学生活向上への意欲を持たせることができる。

(4) 1年生の保護者に対し、ガイドブック（保護者編）を導入することにより、現在の就職環境や就職への道のり、保護者としての対応の仕方等を早くから認識させ、十分なコミュニケーションを通じて学生の就職活動への理解と積極的な支援を得ることができる。

(5) 就職活動学年の学生に対しガイドブックを導入することで、就職活動の各場面での対応について理解させる。これにより、自らの就職活動に自信を持って取り組む指針となり、就職内定に向けた効果的な就職活動を展開することができる。

(6) 面接トレーニングワークショップを行うことにより、就職活動直前の学生に対し、エントリーシート の書き方を含め面接試験への対応について一層の理解を深め、実践的トレーニングにより学生の面接力向上を図ることができる。

(7) 事業評価委員会の開催により、これまでの取組について総括を行い、その内容についての検証を通じて問題点や改善点を確認することにより、今後の学内就職支援委員会の活動や教職員の取組意識の向上、学外からの理解・協力を得る点で効果がある。